山乃幸
天

山華序

菴主ありやくと訝く去八石青
親多園あり片精を携来る云
毎華訳と出来ぬみ山華なくん
あしとれこと写く年去山華ハ訳
之図をんてかみに通りんもと
わ禽獣ハ生写なし　之上訳
難ハ致大ふし　二十片白のく成りてし

筆をもちゆるの妙術あり筆意
を画は山筆をあらはし要筆に試
なる又後漢蔡邕より以前をたどり探
あり止みは志のしと同辞をとりても
東都にて七をあらはし筆画を画形く
とこ圏をもて筆を束ね猶も画家の
草木は形容のとやうふり曲あり
意得やさしあらはれたりより抱き筆し

筆之誠用ゆふあしれ毛取正しう
されバ分うらしく葉ふ直あるハ速よ
曲れるハ曲りやしれハそのつう筆運
けりとて筆ぬゆふ居おしとかふまあし含
彩色み自由ありされバ似るも爲る似
さるもあり海の趣も山の趣も興ハ
そし里も南ののゆのゆ名筆居たる
ちょうとあん成めと訛小述

叙

ゐるとし海寿成めてよ山寿ちなゝい
あまくうしくとおしめ俳句を漏さる人に
のそめうより是哉話に水をかゝる
記生辞してうけるは此へきあり
されはこゝにまてしあつめる草花もしるし
を画たる是哉俳の様よりをかしき海
寿く続るをもはへ　山寿ちなみにつけ答

浅き海のみるめしぬまて海
山の豊年をことへくわのふしへを
旹明和二年春正月

俳耕林
秀國

ぬく喜とし 福寿草 元日草
ふくきく

坐噺亭 錦水子

植木屋も
萬ひため年里

福寿艸

七種

其説あまたあれども此ハ俗の云ならハしあるを図す
下なるハ初春
上なるハ二月の末

せり
なづな
ごぎやう
はこべ
ほとけのざ
すゞな
すゞしろ

七くさや
千種の
中より
撰れし

琴舟子

たんほ
蒲公英　黄花地丁　白鼓丁　つゝみ
大丁草　狗乳艸

風呂端哉
ゆゝ行て妻とふ
出ちんあう角

十光庵
碑明子

書人草下

王不留草　禁宮花　魚児牡丹
荷包牡丹　剪金花

蝶計嘗天茂
免須花濃主

仙斧子

やまぶき 棣棠 金盞喜水 荼蘼 金線蛙

かはつ 鼃 長股 青雞 坐魚 蛤魚 土鴨

棠あね手洗の下の蛙かれ　京而

山吹やつるも乃んと死かくころ　久重

山吹の瀬へ見達の小船かな　鯉藤

蛙鳴く秋やかそくむ星の数　杉

猫ヒ哥のしら迄うきん川哉　東

とり形を飛ふをしても蛙の角　菊

蛙鳴こゑろい朧月の田の夏雲　康円

あざミ
てふ

小薊　眉作の花
蛾蝶　蝴蝶　蛱蝶

同し手越舞つても倦ぬ胡蝶哉　里□

きく菜のはへ蝶居させし
花の風情も生作らいうれ

花園へ是は往来の胡蝶の角　蘭秋子

川風に吹れて戻る胡蝶哉　満峯子

目もあをて蒙うしく休む胡蝶哉　亀磨子

花挽人を迎ふ蝶飛手う那　泊月子

蝶うろく人草踏ぬすゝき川　英枝子

眼尖のつゝ眉ミ似や鬼薊　其残

おほおち　もち　蜜蜂　壺蜂　佩瓠蜂

すみれ　菫　菫葵　旱菫　紫花地丁　古ゐひき

雪人をまハ下ゟ道すみれ哉　金陵子

蜂の巣やすみれ動くゝ舟の陸　桐水子

おもまるやゝ插のあそ門の土筆　画松

蜜ふくみの蜂ゝ何ヶ日よりすみれ　保井

有るてなし浮世哉蜂の癖上戸　雲[illegible]

手露のつきぬこすれつ菫の形　壽[illegible]

はち　紫藤

みつばち　土蜂　一名蜂　熊蜂　蟷蜂

出初の尺取虫や米のかれ　鯉藤　貞望子

弦ひめる鞠の振ふや蓑の虫　祇考子

咲のひる夜へかゝるや蜂の巣　浚國

蜂捕やトリ水と虹の影　一筏

峯の蜂葉藤の松をちうかゝる　南鶴堂　栄巴

山蜂の巣見をはなれてや雷　梅花　沾哉

熊蜂の乳房小家し巣の味　丸成

志やくやく 将離 梨食 餘容 かほよ花 白名金芍薬 赤名木芍薬

けら 螻蛄 天螻 仙姑 梧鼠 石鼠 土狗 螜

芍薬やほろんと

蔵の裏道

芙山亭

簾雨

ごじくハ　午時花　夜落金銭花
又の名　旋花　鼓子花　狍腸艸　天劔艸
纏枝牡丹　かゝすのちやうん

又〳〵時鐘の
手伝ふ午時花哉　水鷗

花さつ昼の光を
咲ぬを凄りくの菴　白里

由里　百合　鼬　强瞿　蒜脳藷

かぶとむし　甲虫　獨角仙

駿志海士望雪居

神のまへ所もありやかぶと虫　都山子

米汁の中又殊しやかぶと虫　牛清達

燈虫眼とかぶり古戦場　市鶴

鬼ゆりの鬼一口や雨の際　孟涼

かの知よ姿ありけり百合の花　一鶴

蒙宮

風しまはぬ手綴やか蒙の車　由里　瀬関

けたてふ　毛蓼　紅草

代蝶　かゝやへりとう　ト

咲採ふ梢を蝶の最中かな　白忘園

熟親女

田の畦も見え菊て来て胡蝶かな　呂宗庵　羅卑子

汚しく花ゝゝ雨る胡蝶かな　杜大

草の葉とおのれは種｜隠蝶　玄兜

ちる花とちゝぬは蝶の途かな　平秋

蝶虫の毛ころも脱て胡蝶かな　湖丈

とけいさう 土圭草

はち 黄蜂 土蜂 壷蜂

神鋒の花吸蜂のかくれ哉　蕪茂

友をかし深き蜂の窩　上戸　露睨

蜂の巣やさはらぬ桜の花で後　是徹

鐘の音や里も明るし時計草　風也

鐘撞の笛るよしとしくや土圭草　二橋

かしかし明しぬ斗や時計草　女　通澤

いちはつ　紫羅傘

さぎさう　鷺艸

鷺草や人も通さぬ橋の前　亀仙子

鷺草の我楽しむ姿かな　鶴和子

雑魚網ふ花の紹や草の陰　汶上舎　静波

鷺草やとのこ隠り羽かな　画桃

いちはつや新しの煙の中に咲　好鷲

いちはつやはつれあやめと屋根の上　如水

やぶこんにやく　鬼蒟蒻　天南星

せミ　蝉　蜩

傘の亭みても申のし蝉時雨　張波子

蝉の声深山ハ雲も有ぬらし　稲麿子

雨晴て又聲出す也蝉の群　烏鷺

動く葉ハ一葉もなく蝉の声　識求

入梅晴やゝぶこんにやくハ志らぬ色　風物

竿や藪こんにやくの花ある也　櫻園

なすび　茄、落蘇　崑崙瓜　艸鼈甲

毛むし　毛虫

きぬふるひ露もおきさぬ毛虫哉　逸巳子

踏つけて恐ろしく毛虫の形　此凡

馬の荷もゆるされしや初茄子　寿國

初なすひ仰ぐハ高し富士の姿　桐井

姿のやさしく殘りあり初茄子　祇周

富士もまた半ハ白し初なすひ　水濃

津りの季字

くも

蜘蛛　蟏蛸

星合やくれ待軒のひかり蜘　杜考子

若竹やちくれい参る蜘の巣　東武 竹苞

むし干やおさめおく文袋くも　亀汀

蜘の囲の若竹くる力かな（括）　东竹之

若もよわり鐘鋳の二字を題として

五月雨や請し酒債の袋蜘　小田原 露貫

清りの季字咲や見るの吉張場　秀興

わさの花　ちんめう　斑猫
とかけ　揃場　なるこ
爪ゝ取く揃場も凉し　岩间水
宵月さひとかけさるや茶ほり　余花庵　徳英
是ハ時さし經そあり孫の花　絲瀾
此あそ誰ヶ肌なれわさの花　貞住
萬る時のけむさおそへ孫の花　當田家紀陽　巴水
斑猫く々れも山中平九郎　柴窗　水綺

ゆきのした 虎耳草 石荷

かたつふり 蝸牛 蜒蚰蠃 土牛兒 螔蝓

うくやある庵の耳艸咲ならり　螺窟屋

二度見ても貝をすて那ゆきのした　东籬庵 立豐子

大原の道志るへせんかたつふり　何佛

齋物我
草の戸も我住かそと蝸牛　風馬

辛崎の雨のたひやかたつふり　一一

雨ふるゝ雨ふるゝあるく蝸牛　富士賀

かくれすむ燕麦　杜若中

牛星艸　雀渡

なとり草

へむ　夏鼻　くちたらゝ

ちゝみおゝく蛇とさりしや藪の幕　未白子

附ふ話や蛇さく後のころもうへ　午膝

初蛍やみこくらふ蛇のあし崇と　鳩居

猫の尾の毎にかまゆし夜月記　女　さくら

其かりハ風を指すやおとり草　一秀

星さき月とらつめ文月かうとり麦　女　通車

あぢさゐ 紫陽花 四ひらの花

ほたる 螢火 夜光 景天 救火 丹鳥 熠燿 宵燭 挾火 余暑

水くらさや螢の上に川二つ　東窗 木髪子

牛の尻を辷りて草の螢かな　買山義

闇くらく帰るゝ豆の尾かな　薫子 百寿

つのまんと水くゝ線実螢かな　情咲

紫陽草や日和て曇る壺の邊　鶯道

紫陽草や此川よりかるゝの香　女 枕綠

へびいちご 蛇苺 蛇藨 地苺 ○ 仏のまま 鷹爪

志やか 紫蝴蝶 鳶尾 蒼頭 ○ てふ

てふしやの里を見捨て狂ふ 平井僧 守拙

野をしのぎて蝶あり蝶に 孤山

月くわろく風をおもひて胡蝶哉 祇尺

蝶しの見果めさまや志やかの花 好稽

名をしりて草かしこしや蛇いちご 英国

踏木とつとるおりの蛇いちご 小田原 ○園

きうり　胡瓜　黄瓜

かうもり　蝙蝠

かはほりハ和名にかはほり又大勝ひ
勢ひを取るふとといふも昼ハかうちの樋の
うちにやどりけん

蝙蝠の昼見出ちりやみなあふ哉　如雪よ

かうもりや川子の露ふく猶郎王　五離

うちかけ一夜由へ飛ぶ蛍ぞ又黄かし　李よん

蝙蝠も琴柱の影や橋の月　躍然

かうもりや柳の間のきよし川里　可山

百咲く花て露ふた胡瓜哉　草扶

あふひ　葵　小葵　銭葵　鴨脚葵

かふとむし　金亀子

花も實も雨に小葵の素直かな　如常

小あふひや鈴の娘もすゝれ城し　山長

小葵や猫に雉も子をもつれ　五蝶

美照や長者の丸の金亀虫　貫十

かふとむしのさ羅や紙要　女　川路

雨の猫かく桑の葉の風やこゝろ去　如菜

美人草

びじんさう

此壷の
かへるを
やらし
美人艸

林花堂

地

八拾 稲いなご 蟲合

稌呆 負蠜

蚱蜢

稲妻の
ひかりに飛て
いなごかな

香園子

七夕や
尾花ハ
かや乃
裾模様
桂子子

しほよ　宗鼠　おほのねずみ

もんどう　䶄鼯　一名　陵鼠　ちやうくら

うころもち　鼹鼠　恒在土中行著見三光則死　鼢鼠　田鼠

土豹　土龍

やはらかや
土龍の穴うして

う傑子

静観有生意正知一般看不須
除去兮誰識天心寛

うしまう虫（王瓜 老鴉瓜 赤雹子 野甜瓜 公〻鬚 鉤藤 土瓜

みのむし 蓑衣虫 結草虫

蓑虫や露しく家うしと隠れ笠　栖鸞

烏瓜のこる夕日や藪の照　栖湖

らん　蘭　秋蘭　幽蘭

かまきり　蟷螂　拒斧　不過　蝕肬　蟳蟭
致神　野狐鼻渫　いふしり

捨扇ゝ蘭の香流ふ端居哉　蘭十

闇代ふる間より蘭の匂ひ哉　波京

蟷螂やよい樵夫の斧の音　蒼虬

志うめいきく　秋冥菊　呼牡丹

かみきりむし　髪切虫

菊らし秋の牡丹の眼く異　旭道子

寺中く庭の手折や呼らん　秀鯨

二十日何盛目出度秋ぼたん　英園

静さよ秋の牡丹のはつ花　静園

秋さく咲菊の中にも富貴の菊　小女　兼式

咲中く秋のぼたんや菊の王　阿[illegible]

おしろい　白粉花

たまむし　玉虫

白粉花ちるふや

一矢流篭くれ

仰高菴

金羅

かはちや　栗浦塞凪

いもむし　芋虫

いもむしく葉うら落て磯の浪　十光菴 雄渕子

いもむしや蝶となる日を蛹衣　桜亭 其いさ子

芋虫のきを色見せすらん　三巴

座禅して尻の腐れや皮うらちや　皓水子

所は尾を南向ける栗浦塞きらん　遷平

多くさん生まれてこそ雨うは隠ちや　秀洲

ほゝつき
まくむし

酸漿 燈籠艸 皮弁草 王母珠
洛神珠 天泡艸 苦耽
諸名

ほゝつきや
好かれしと
売夜

普子 百壽

なたまめ　刀豆　挟劔豆

ひくらし　寒蟬　寒蜩　蟪蛄　余暑

なた豆や蔓への氣よき花筏　夜笠子

刀豆を少得てそ川面ものの命　素江

刀豆や淋しき秋にそりかへり　甫角

ひくらしや鳴て淋しき合歓の枝　香壺

蜩く雨の多照や甘露山　花月庵　梅義

あんとく　檀特花
くれまも　蟋蟀

鳴やミて足音はけよ蟋蟀　几董

常業の床ゆかしくやくれ乃虫　菅子

つる世むる秋の風波あり蟋蟀　保古

くれ川よもし鳴音も強し古戦場　暑玉

あんとくに淋しく赤し古の秋　百祐

並蕗行以便へやれ川まへ檀特花　林舟

けいとう 鶏頭 鶏冠草 けいくわさう 戴菜 魚鯹艸

はたはた 螇蚸

神田養中

鶏の立てうきたり鶏頭花　節花

鶏頭も幾代の種か社頭寺　松家

鶏頭や百日紅の散て後　泉之

人里に附て咲るや鶏頭花　梵鶏

鶏頭や西日うくる崩ミ家　魚州

きりしや見てくみいるか花　侍美

ほうせんくハ鳳仙花　夾竹桃　染指甲艸　つまくれなゐ

きりぎりす　促織虫

虫のあはれ夜や織てみのふしき　桜川説　常春子

蟋蟀やかまし写け虫も機織つ　ゑ光洞　為鶴子

きりぎりすや大内山の昊腹む　雁光

不化祭ハきりぎりす虫のうきなかうふ　清花亭　呂帆

すてられしぎく露まけなる鳳仙花　荊峯楼　左掀

枝折戸ノ簾の青あり鳳仙花　今市　珠明

まつむし　松哀
きりぎりすと　草尚次　隺喬篇

松むしや声をかしき秋の色　寸草子
誰が作り人まつ虫の提ちうり　信雷
松虫や声すゞの河の面さして　佐幸
出様なり誰まつ虫や秋の声　簾之
古御所で誰が捨てやきりぎりす　柯亭女
咲中よりなきつゝ立しきりぎりす　通草

きちやう　桔梗　白薬　梗草　きちかう。ありのひふき

おもかけ通　茶花　てふ

淡黄うしろ雲ゐ明神の桔梗哉　　舊波

それ麹や桔梗畠の夕嵐　　羅光

廿日何桔梗の原の群かめの角　　眉亮

玉張石の嶋く桔梗や美女の貌　　る帳

紺の母いかうくきちやうの色の袖　　斯奇

家ちちうちも障ぬ桔梗の藤つ　　る十　下総宝珠花

猪牙のちそろをかりるや秋の蝶　　斗牛

へちま　絲瓜　天羅　布瓜　蛮瓜　洗鍋羅

とんぼう　蜻蛉　赤卒　纏綿　赤衣使者　赤弁丈人

窓はいる赤とんぼうや形まても　旭峯子

國の名を呼ふとんぼうの姿かな　蟻子

とんぼうも時の雫よ存れりん　晔牛

かと水虫の化すとして
其影を淋しや

とんぼうや何を数書く川の瀬　既醉

やんまうや流るゝ遊ふ尾の雫　東記

月更て画もち島の小や蛍る音　竹賀

われもかう 地楡 異名有左 又一種吾れもかうと云又一種のこぎり草と云又

やんほう 蜻蛉 虰䗌 負勞 蟌 狐羊

地楡 ちゆ 鋸草

一名阿夜母太無 又云衣比須祢

本艸釋名 玉豉 酸赭

弘景曰其葉似楡長初生布地故名其花子紫黒色如豉故名玉豉按地楡一名酸赭其味酸其色赭故也

強き名に和しき名あり吾もかう

平碱

つり舟艸 又ところむささき

かうろげ 竈馬 竈雞 いとど

かうろげや夕べは寒し黒木賣　狼寛

竈の音も暖ほのや末の秋　秋宿

竈へうるや錆鍋の鑵の下て鳴　田

かうろげの声しめ鳴や竈の上　墨猿

竈うるや竹を寝させぬ流しかな　斧女

浅須泊ぞつり舟草も咲けり　張園

ほとゝきす草

むしハ草

みゝず　蚯蚓

螼螾　寒蟺　朐䏰　堅蚕　蛩蟺
曲蟺　土蟺　土龍　地龍　歌女

是もまた笑ふ翁あり布袋草　寂寥と為　宗雨

鳴とてもほとゝしお蝶凄や袖　儲十

吉野しの里もめづらしきす　小祇改　金洞

こえもれ蚯蚓のあや園の宗　慈阿

蚯蚓なりけふを向ふの露むかし　畔李

うかれ蚯蚓の唄や伊勢の歌　亀連

せんにちかう　千日紅

てんぎう　天牛

千日紅手種まつれし花之いろ　泰國

此やのくと千日紅も九月哉　啓嬌

稚ナ子のたしきるよさるや千日紅　蘭波

天牛の葉つと二つに聚ふゑ　郭壽

天牛のをこも居らんもり小藏象　東宇

津まきまき　槖吾　○なめくし里蛤喩

きりぎりす　蟋蟀　志庵かゝる廾

初霜の影あるし名残の宮　芝与

日の恩此涼まき森や津まの宅　古莚

行ぬきおまきりやあくし里　芝与

仙術の堂さしまりく者　亦月

きりぎり仄膝をかくる面枕一面　冥月　砧舟　十

侍まひの家枕の帰やきりぎりす　久蕊

すいせん　水仙花　金盞銀臺

ひきかへる　蟾蜍　癩蝦蟇　黿黽　苦蠪

一空坐

初虹や海の白をそめやてを色　旭和子

信鳥爺

水仙の床ゝ言ふくひきかへる　つる一肝

蟇踏て足洗ひもる涼の所　斗稜

鹿火家

浅座建つゝかひやくの下も蟇帰や　白翔

待宵や何うそりしと蟇の振　波香

雪よ遠く風すも諫し水仙花　雲如

うへきく寒菊　○やふかうし　茅蕪果
むかて　蜈蚣　夭龍

扇ふる百足乃汁やうつふ山　菊旦
爪合しむかてもあるの寶船　汲堂 砂汀
枯木らふ蕎さく凄し上山　筆端
くる嫋山参る向むかてるや眷追　杏羅
六ら菊や師走志る後の園の主　大来
あるふて裏絹久し数棋子　和薫

まつ川　松　千代見草　ふち見草

北野ニ御座社前に
一夜のうちに松千本生けれ
是故北野の一夜松と云々

引しや松も
北野の一夜草

田瓜庵蔓窗
李冠子

春霞むくや蓬莱の峯の下　存義

芸るとも雲指とけし離れ山　平砂

足曳の峡とめりや舟のすゝ　米仲

うつむけは桜手ありや山さくら　寅明

金山の峯を流るゝ雲屋里　楼川

廿山笑ちゝくぬ日旦一つ郎　湖十

け出し佐保姫在ら霞の糸　百菊

月花や竜月うつりぬ山をさく　珠泰

藤咲り鬼の窟のまゝのし松　萬立

春ゝ川や婦ゝゝの山の機織人　秀信

駿河惣社二月の神事に
ありしをおり下り来るなり

錦ゝ花や綾機山の常おろし　吉門

妹山に背山代咲や妻恋色　栖雀

ミ汁入ても里残棒打や酒の鍋　鶴口

山坂をちくゝ出かゝる母哉　柳尾

狐の声届し里まで戻し二條の書　庭臺

惟茂く懲めし遊ひや裏比山　由林

薄墨き山のうしろや浩然輝　田社

菜ハ葉のゆつれや夕氣波　圓大

雪菜つむ僧ハ行暮の太山畑　鶴粉

春仙別名

そら明霞ハ太良坊あり初霞　喜堂

雪解つゝ山の声ある霧の角　温克

うるは芽や日のくれ山をまつりとて　在諸

富士を指筑波をさすや柳哉　祇徳

御門主の御通輦拝し奉

撞鐘もうつや上野の桜かな　小知

白雲と松のみ見えて花の山　亀笑

木織山のこゝへのく遠しお保の月　田女

竜宮の山路も有世と見の花　永機

海あるもの南し山ありの花世界　律住

東原き山路落る岩根うる　一圃

こゝろをとゞめ給ひけば奥
山の苔むしのひ侘りぬ
おもふのもしく成ぬ是も誠よ
あはぬさゝちとおもくぬ

のむやのよ桃咲なり庭の山　秀国

村雨も待く今出来し蝶　有壺

裏家中旅寺香味や酒めらん　守拙

我身の事をみ笑ふなり　秀鯨

十六夜ゝ豆し比給のわ名　未白

宵世ゝ山のもみつるすゝ川霜　[illegible]

足もやゝ一夜満しさ定ふ義戦の秋　鳥暁

若ハ力そゝしくハ送る指投指　百疑

以川出て畜も覚へぬ恋の哥　女 通車

時計の役を洗ふ六月　英国

凌霄ハ早くもりし盛りけり　萬國

振りのむも相うし仙人の居　保斗

近る来し極楽山の道あり　普瀞

替女坡うそくるかくのおくさこ　和菜

茶すつる宗中の窗の小宴　南雪

夏かも雨けぬ去川年の月　壽堂

花侭は清き北ゟ目見なして　風物

ぬるむ汲のゝ中数田の水　秀蘭

此川しうゐ鎌倉ゟ峯の時出し　砂十

筋出して此原ゑ設傘　菅渓

あかしまた手まへ敷を獲けり　有壷

南に桜みの野よ夢の門立　烏暁

付く薹すゝやふ陽帯花て　秀蘇

海猿くまりま松ちは凡呂補　通車

摩耶くゐ酒茲字紀語波ある　可絵

財の路先をあかりの四十二　美生

平家をも石臼藁にうかる也　英圓

稔田の煙り出し消て暮る　南言

名にし越俵道へも雪の法度かな　和栗

義ふ否ちりのしこそしの花　守拙

ナヲ
世借りし雁来ハ隣へ下りうき年　保牛

菊落ハよろ侍汁ハさんしく　風物

上ヶ松を雲居の百花拙ありき　春堂

日和都まる哭の中に無事　来白

咲よ鳥ふれハさふらふ雨の年　寛明

春をうる年二年三玄猪の草　温亮

明和二乙酉年十二月

書林 本材木町三丁目 丸拔屋平三郎

同 日本橋通三丁目 松本善兵衛

彫工 大傳馬町二丁目 關口甚四郎